

情報通信研究機構

NICT  
先端研究

(159)

皆さんは「空気」についてどんなイメージをお持ちだろうか。空気は、私たちの生活になくてはならない存在であるにもかかわらず、普段はあまり意識されないことはないのではないだろうか。しかし空

気は、PM2.5などな空気指数、CIIaとして空気がキレイな地域による大気汚染が世界n Air Indexの慢性的早期死亡リスク(CII)を提案する第4位に挙げられている。生活だけでなく健康にも直結するデータを併用し、日本のIが0.9以上は重要な要素である。1896地方自治体を東京の離島や四国から我々の研究チーム対象に、空気のキレイな地域を比較すると日本は、大気汚染を専門家（大気汚染物質の少部）の夏に見られることだけでなく一般市民の（な）をCIIによって分かった。図に示す通り、日本は、ソウルよりも1.7倍、北京よりも2.7倍低かった。実際、

キレイな空気“見える化”

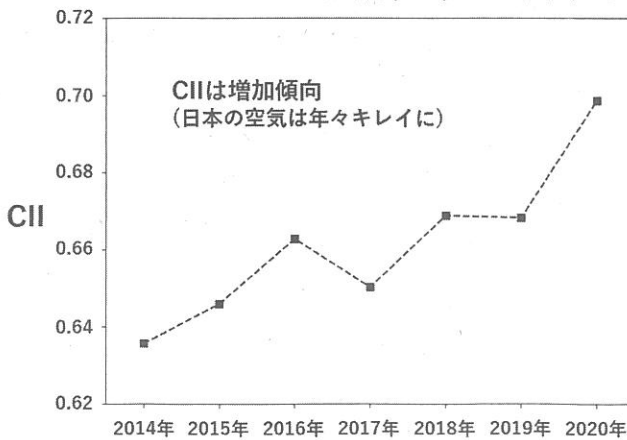
テラヘルツ研究センター・テラヘルツ  
連携研究室 ティーユアトラック研究員

佐藤 知紘

2014年東京工業大学博士課程修了後、市川学園常勤講師を経て、15年NICT入所。16年4月より現職。衛星リモートセンシングによる地球大気化学研究に従事。17年日本大気化学会奨励賞受賞。博士（理学）。



キレイな空気指数(CII)の全国平均



環境省大気汚染物質広域監視システム（通称「そらまめ君」）の観測データを基に、1年間の内でCIIが減少しやすいうちに、4-6月の3カ月間の平均値を算出

「洗肺（シーフエイ）へ訪れる中国人観光客のキレイさについて調べていく予定である。最後に、（空気に限らず）環境と経済活動の関連について触れておきたい。新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の減少に伴い、世界中の至るところで大気や水質の改善が報告された。つまり、環境は人間の努力によって改善・維持できるのである。

これからは、環境と経済が表裏一体にあることを理解し、長期的な視点で、どのような社会を後世に残していくべきかを考えるべきではないだろうか。（火曜日に掲載）